

3. 生活問題の階層性

身近なくらしの場である地域を基本的に規定しているのは、それぞれの地域でくらし  
ている世帯の「くらしの基盤」である。ここでは、くらしの課題について、生計中心者の就  
業の有無や働いている場合の雇用・労働条件によって区分した階層ごとにくらしの実態を  
みていくことで、具体的な取組や対応の課題を明らかにする。

- (1) 地域問題の階層性（表Ⅱ－39）
- ① 階層構成別にみた地域で日頃何とかしなければならないとされていること
- 全体で多いのは「交通が不便」、「鳥獣による被害」、「地元に働き口や仕事がない」  
「買い物が不便」「子どもがいない・少ない」といった、社会保障・社会福祉の前提  
条件である「くらしの基盤」に関する項目である。次いで「ひとり暮らし高齢者の  
こと」といったくらしの中身に関する項目があげられている。国・自治体による社  
会保障・社会福祉については「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」  
や「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」が高く、くらしを支える条件では「自  
治会や地域団体の役員のなり手が少ない」が高い。

表Ⅱ－39 階層構成別にみた地域で何とかしなければならないこと（複数回答）

	総 数	あ る	くらしの基盤																						
			交通が不便	鳥獣による被害	地元で働き口やしことが少ない	買い物が不便	子どもがいない少ない	夜道が暗い・街灯がない	通機関が少ない	高齢者や障がい者が安心して利用できる交	地元の農業や商工業の振興	山林農地の荒廃	物価が高い	ごみの処理・不法投棄	子どもの遊び場や公園、スポーツをする場 所が少ない	道路が狭い	保育所や幼稚園、学校が遠い	路上駐車が多い	誰でも安心して往き来できる歩道が少ない・段差がある	保育所や学校が減った	公害・河川の汚染・悪臭	騒音が激しい	乱開発の防止	雪かき・除草がたいへん	転出・過疎・人口減少
合 計	100% 823	(86.8) 714	43.1 308	35.7 255	33.5 239	31.8 227	28.6 204	19.0 136	17.6 126	15.1 108	14.4 103	13.6 97	12.9 92	11.8 84	9.0 64	8.0 57	7.0 50	6.4 46	5.3 38	5.3 38	4.5 32	2.8 20	2.0 14	1.7 12	1.7 12
経 営 者 層	100% 29	(96.6) 28	28.6 8	21.4 6	28.6 8	28.6 8	17.9 5	14.3 4	14.3 4	25.0 7	14.3 4	21.4 6	3.6 1	21.4 6	3.6 1	10.7 3	7.1 2	3.6 1	14.3 4	3.6 1	3.6 1			3.6 1	
ホワイトカラー層	100% 113	(85.8) 97	49.5 48	32.0 31	34.0 33	35.1 34	25.8 25	32.0 31	24.7 24	14.4 14	14.4 14	9.3 9	16.5 16	10.3 10	7.2 7	8.2 8	11.3 11	9.3 9	8.2 8	5.2 5	6.2 6	1.0 1	1.0 1	5.2 5	
ブルーカラー層	100% 75	(89.3) 67	52.2 35	29.9 20	41.8 28	41.8 28	23.9 16	26.9 18	6.0 4	10.4 7	11.9 8	7.5 5	20.9 14	20.9 14	10.4 7	11.9 8	7.5 5	7.5 5	3.0 2	10.4 7	6.0 4	6.0 4	6.0 4	3.0 2	3.0 2
不安定雇用者層	100% 121	(89.3) 108	40.7 44	32.4 35	35.2 38	35.2 38	25.0 27	18.5 20	12.0 13	12.0 13	11.1 12	13.9 15	8.3 9	8.3 9	8.3 9	8.3 9	3.7 4	7.4 8	2.8 3	2.8 3	7.4 8	0.9 1	0.9 1		
自 営 業 者 層	100% 222	(87.4) 194	36.6 71	34.0 66	35.1 68	27.8 54	37.1 72	20.1 39	21.6 42	23.7 46	16.0 31	14.9 29	12.4 24	18.6 36	11.9 23	8.8 17	8.2 16	6.7 13	7.2 14	5.2 10	3.1 6	5.2 10	2.6 5	2.1 4	2.1 4
無 業 者 層	100% 263	(83.7) 220	46.4 102	44.1 97	29.1 64	29.5 65	26.8 59	10.9 24	17.7 39	9.5 21	15.5 34	15.0 33	12.7 28	4.1 9	7.7 17	5.5 12	5.5 12	4.5 10	3.2 7	5.5 12	3.2 7	1.8 4	2.3 5	1.4 3	0.5 1

- ・階層別にみると、「経営者層」では、「ある」と回答した割合が96.6%であっ  
た。くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」、「買い物が不便」、「地元に働  
き口や仕事が少ない」がいずれも28.6%、「地元の農業や商工業の振興」25%など  
が高い割合となっている。合計値と比較すると「地元の農業や商工業の振興」、  
「物価が高い」、「子どもの遊び場や公園・スポーツをする場所が少ない」、「保育所  
や学校が減った」が高い値となっている。
- くらしを支える条件は、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ない」、「住民相  
互のまとまりや助け合いが乏しい」がともに14.3%である。合計値と比較すると  
「住民相互のまとまりや助け合いが乏しい」が高い割合であるが、それ以外の項目  
は低い割合が多い。
- 国・自治体による社会保障・社会福祉では、「医師や看護婦・保健師などの医療  
従事者が少ない」、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」、「往診をしてくれる  
医療機関が身近にない」21.4%などの医療供給に関するものと、「特別養護老人  
ホームや老人保健施設が少ない」17.9%といった福祉施設に関するものが高い。  
合計値と比較すると「往診をしてくれる医療機関が身近にない」、「お年寄りが安  
心して気軽に利用できるサービスが少ない」、「特別養護老人ホームや老人保健施  
設が少ない」が高い割合となっている。

くらしの基盤	くらしを支える条件								国・自治体による社会保障・社会福祉												くらしの中身							とくにない
	公共施設がどこにあるかわからない	災害への対応・避難場所	自治会や地域団体の役員のなり手が少ない	若い人と高齢者との世代間交流が乏しい	住民相互のまとまりや助け合いが乏しい	子どもの非行・いじめ	いつでも気軽に利用できる会議室・集会所	近所付き合いが大変	医師や看護師・保健師などの医療従事者が少ない	救急・休日・夜間の医療体制が不十分	役所や保健所などくらしにかかわる施設が遠くて不便	往診をしてくれる医療機関が身近にない	お年寄りが安心して気軽に利用できるサービスが少ない	くらしや福祉のことで気軽に相談できる窓口が少ない	くらしや医療・福祉のことで利用できる機関・施設が少ない	いつでも診てくれる医療機関が身近に少ない	特別養護老人ホームや老人保健施設が少ない	くらしや医療・福祉のことでいつでも相談できる専門職員が少ない	障がい児や障害のある人のための施設が少ない	くらしや福祉のことで気軽に相談できる窓口が減って困った	ひとり暮らしの高齢者のこと	寝たきりや病氣・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと	働けなくなった高齢者のこと	障がい児・者がいる世帯のこと	子育ての不安をかかえている世帯のこと	母子・父子世帯のこと		
1.5	1.3	17.1	14.8	8.8	4.9	3.4	2.5	0.4	23.5	20.6	18.1	12.5	10.9	10.2	10.1	9.1	8.8	8.5	6.7	2.7	30.0	16.2	14.1	6.8	7.3	5.9	2.2	(13.2)
11	9	122	106	63	35	24	18	3	168	147	129	89	78	73	72	65	63	61	48	19	214	116	101	56	52	42	16	109
		14.3	10.7	14.3	7.1				21.4	21.4	17.9	21.4	14.3	7.1	10.7	10.7	17.9	7.1	7.1		32.1	25.0	21.4	3.6	10.7	10.7		(3.4)
		4	3	4	2				6	6	5	6	4	2	3	3	5	2	2		9	7	6	1	3	3		1
	1.0	16.5	10.3	5.2	5.2	2.1	1.0		23.7	27.8	16.5	9.3	13.4	7.2	13.4	9.3	7.2	7.2	8.2	1.0	29.9	18.6	7.2	9.3	2.1	8.2	4.1	(14.2)
	1	16	10	5	5	2	1		23	27	16	9	13	7	13	9	7	7	8	1	29	18	7	9	2	8	4	16
4.5		13.4	14.9	4.5	9.0	1.5	4.5		32.8	28.4	13.4	9.0	7.5	9.0	6.0	11.9	9.0	7.5	10.4	4.5	28.4	11.9	16.4	10.4	10.4	9.0	3.0	(10.7)
3		9	10	3	6	1	3		22	19	9	6	5	6	4	8	6	5	7	3	19	8	11	7	7	6	2	8
1.9	2.8	11.1	13.9	12.0	2.8	2.8	1.9		24.1	24.1	21.3	11.1	7.4	12.0	7.4	7.4	4.6	7.4	6.5	4.6	27.8	13.9	14.8	8.3	5.6	6.5	3.7	(10.7)
2	3	12	15	13	3	3	2		26	26	23	12	8	13	8	8	5	8	7	5	30	15	16	9	6	7	4	13
2.6		24.7	16.0	10.8	8.2	5.2	3.6	0.5	20.1	18.0	16.0	10.8	14.4	12.4	10.8	9.3	11.9	11.3	8.2	4.6	30.9	16.5	17.5	10.8	9.3	6.2	2.1	(12.6)
5		48	31	21	16	10	7	1	39	35	31	21	28	24	21	18	23	22	16	9	60	32	34	21	18	12	4	28
0.5	2.3	15.0	16.8	7.7	1.4	3.6	2.3	0.9	23.6	15.5	20.5	15.9	9.1	9.5	10.5	8.6	7.7	7.7	3.6	0.5	30.5	16.4	12.3	4.1	7.3	2.7	0.9	(16.3)
1	5	33	37	17	3	8	5	2	52	34	45	35	20	21	23	19	17	17	8	1	67	36	27	9	16	6	2	43

くらしの中身では、「ひとり暮らし高齢者のこと」32.1%、「寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと」25%、「働けなくなった高齢者のこと」21.4%など高齢者のくらしに関する問題に高い割合が多い。合計値と比較すると、「寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと」、「働けなくなった高齢者のこと」、「くらしに困っている世帯のこと」、「子育ての不安をかかえている世帯のこと」などが高い割合となっている。

・「ホワイトカラー層」では、「ある」が85.8%。くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」49.5%と約5割をしめている。3割を超えている項目は「買い物が不便」35.1%、「地元で働き口や仕事が少ない」34%、「鳥獣による被害」、「夜道が暗い・街灯がない」がいずれも32%となっている。合計値と比較すると、「交通が不便」、「買い物が不便」、「夜道が暗い・街灯がない」、「高齢者や障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない」、「ごみの処理・不法投棄」、「路上駐車が多い」などの項目が高い割合となっている。

くらしを支える条件は、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ない」16.5%。合計値と比較するとほとんどの項目で低い割合となっている。

国・自治体による社会保障・社会福祉では、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」27.8%、「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」23.7%などの医療に関するものが高い割合となっている。合計値と比較すると「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」、「くらしや医療・福祉のことで利用できる機関・施設が少ない」が高い割合となっている。

くらしの中身では「ひとり暮らし高齢者のこと」29.9%、「寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと」18.6%など高齢者のくらしに関する問題をあげる割合が高い。合計値と比較すると同じか、低い割合のものが多い。

・「ブルーカラー層」では「ある」が89.3%。くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」52.2%、「買い物が不便」「地元で働き口や仕事が少ない」がいずれも41.8%、「鳥獣による被害」29.9%などが高い割合となっている。合計値と比較すると「交通が不便」、「地元で働き口や仕事が少ない」、「買い物が不便」、「夜道が暗い・街灯がない」、「ごみの処理・不法投棄」、「子どもの遊び場や公園・スポーツをする場所が少ない」、「保育所や幼稚園・学校が遠い」、「公害・河川の汚染・悪臭」、「乱開発の防止」、「雪かき・除草が大変」、「公共施設がどこにあるかわからない」などが高い割合。

くらしを支える条件は、「若い人と高齢者との世代間交流が乏しい」14.9%である。合計値と比較すると、「子どもの非行・いじめ」が高いが、それ以外は合計値と同じか低い。

国・自治体による社会保障・社会福祉では、「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」32.8%、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」28.4%、など医療に関するものが高い。合計値と比較してもこれら2つの項目が高い割合となっている。

くらしの中身では「ひとり暮らし高齢者のこと」28.4%、「働けなくなった高齢者のこと」16.4%など高齢者のくらしに関する問題をあげる割合が高い。合計値と比較すると、「くらしに困っている世帯のこと」、「子育ての不安をかかえている世帯のこと」などが高い割合となっている。

・「不安定雇用者層」では「ある」が89.3%。くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」40.7%、「買い物が不便」、「地元で働き口や仕事が少ない」が35.2%、「鳥獣による被害」32.4%が高い割合となっている。合計値と比較すると、「買い物が不便」が高い割合となっているが多くの項目は同じ値か低いものが多い。

くらしを支える条件は、「若い人と高齢者との世代間交流が乏しい」13.9%。合計値と比較して高いのは「住民相互のまとまりや助け合いが乏しい」である。

国・自治体による社会保障・社会福祉では、「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」24.1%、「役所や保健所などくらしにかかわる施設が遠くて不便」21.3%が高い割合。合計値と比較すると「役所や保健所などくらしにかかわる施設が遠くて不便」が高い割合となっている。

くらしの中身では「ひとり暮らし高齢者のこと」27.8%、「働けなくなった高齢者のこと」14.8%などが高い割合であるが、合計値と比較した場合、高い割合の項目はあまりない。

・「自営業者層」では、「ある」が87.4%。くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」36.6%、「子どもがいない・少ない」37.1%、「地元で働き口や仕事が少ない」35.1%、「鳥獣による被害」34%、などが高い割合となっている。合計値と比較すると「子どもがいない・少ない」、「地元の農業や商工業の振興」、「子どもの遊び場や公園・スポーツをする場所が少ない」などが高い値となっている。

くらしを支える条件は、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ない」24.7%が高い割合である。合計値と比較すると「自治会や地域団体の役員のなり手が少ない」、「子どもの非行・いじめ」などが高い割合である。

国・自治体による社会保障・社会福祉では、「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」20.1%、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」18%などの医療に関するものが高い。合計値と比較すると「お年寄りが安心して気軽に利用できるサービスが少ない」「特別養護老人ホームや老人保健施設が少ない」が高い割合となっている。

くらしの中身では「ひとり暮らし高齢者のこと」30.9%、「働けなくなった高齢者のこと」17.5%、「寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと」16.5%など高齢者のくらしに関する問題をあげる割合が高い。合計値と比較すると、「働けなくなった高齢者のこと」「障がい児・者がいる世帯のこと」が高い割合となっている。

・「無業者層」では、「ある」が83.7%。合計値と比較すると「特にない」が高い割合。

くらしの基盤に関する項目では、「交通が不便」46.4%、「鳥獣による被害」44.1%が高い割合となっている。合計値と比較すると、「交通が不便」46.4%、「鳥獣による被害」が高い割合となっているが多くの項目は同じ値か低いものが多い。

くらしを支える条件は、「若い人と高齢者との世代間交流が乏しい」16.8%。合計値と比較すると多くの項目は同じ値か低いものばかりである。

国・自治体による社会保障・社会福祉では、「医師や看護婦・保健師などの医療従事者が少ない」23.6%、「役所や保健所などくらしにかかわる施設が遠くて不便」20.5%、「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」15.5%が高い割合である。合計値と比較すると「往診をしてくれる医療機関が身近にない」が高いが、多くの項



目は同じ値か低いものばかりである。

くらしの中身では「ひとり暮らし高齢者のこと」30.5%、「寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと」16.4%などが高い割合であるが、合計値と比較した場合、高い割合の項目はあまりないのが特徴である。

② 定住意識と居住年数、前住地

身近な地域の問題に対する住民の関心は、定住意識や現在の居住地に住んでいる年数などによって違いがある。

(i) 地域類型別にみた定住意識と居住年数（表Ⅱ－40、表Ⅱ－41）

定住意識に関しては、居住年数の長い「Ⅰ 人口密度が高く世帯数が減少」の地域と、「Ⅱ 人口密度がやや高く世帯数が減少」している地域がと8割を超す世帯が「住み続けたい」としている一方、「Ⅳ 人口密度は中位で世帯数が増加」している地域では「引っ越したい」「わからない」と回答している世帯が高い割合であり、「Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばい」の地域においても「引っ越したい」の割合がやや高い。なお、「Ⅵ 人口密度低く世帯数減少」の地域においては「わからない」の回答がやや高い割合となっている。

「Ⅰ 人口密度が高く世帯数が減少」、「Ⅴ 人口密度低く世帯数は横ばいか低下」、「Ⅵ 人口密度低く世帯数減少」の地域ではともに「親の代から」住んでいる割合が6割を超えている。「現在の生計中心者になってから」でも5割を超える世帯が20年以上住み続けている。また、「Ⅱ 人口密度がやや高く世帯数が減少」している地域では5割が「親の代から」、「Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばい」では3割が「親の代から」住んでいる世帯となっている。一方、「Ⅳ 人口密度は中位で世帯数が増加」している地域ではほとんどの世帯が、「現在の生計中心者の代になってから」引っ越しており、その年数も5年以上15年未満で65%を占めている。

(ii) 階層別にみた定住意識と居住年数、前住地（表Ⅱ－42、表Ⅱ－43、表Ⅱ－44）

全ての階層で「住みつづけたいが」6割を上回っている。しかし、「経営者層」「ブルーカラー層」「不安定就業層」では「引っ越したい」が合計値に比べ高い。「ホワイトカラー層」でも「わからない」と回答している世帯が合計値に比べ高い割合。一方、「自営業者層」や「無業者層」は「住みつづけたいが」8割を超えて高い割合となっている。

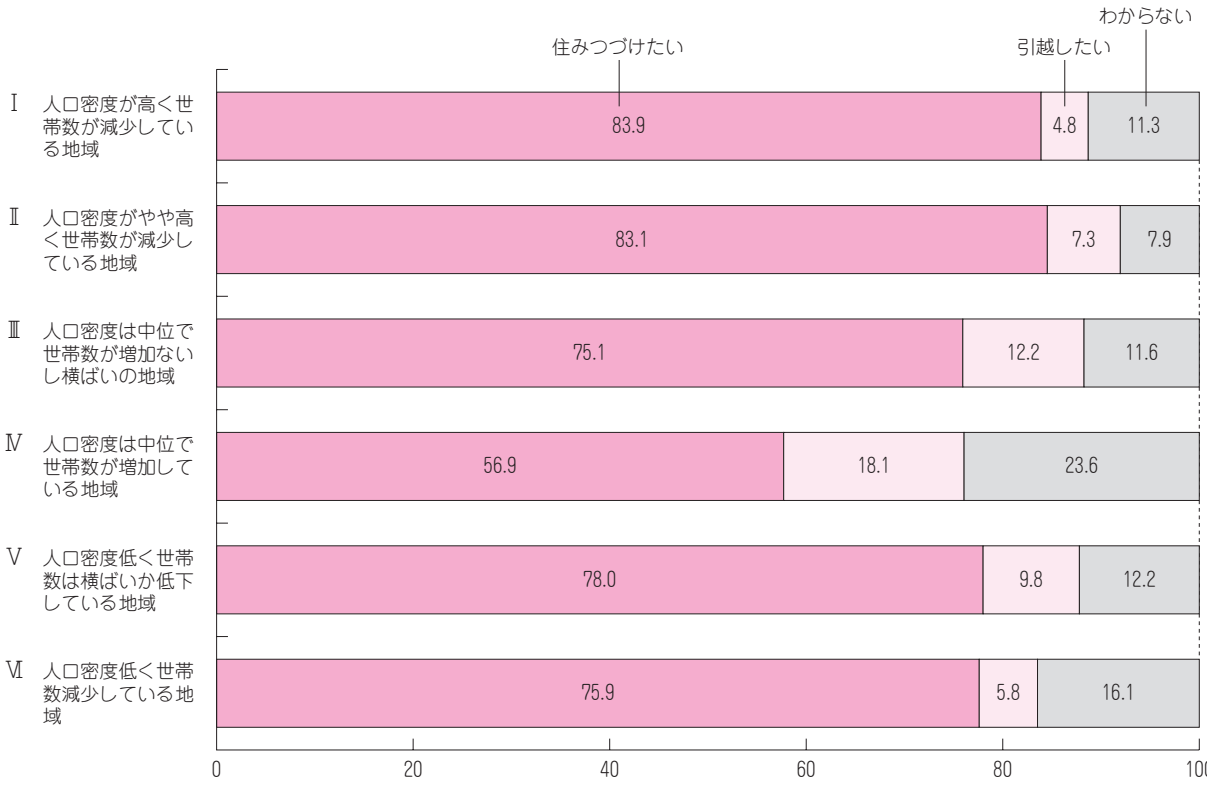
居住年数は、「自営業者層」並びに「無業者層」で親の代から住んでいる割合が6割を超えて高く、現在の生計中心者の代になってから」でも「20年以上」が高い。「経営者層」も親の代からが6割弱と高い割合であるが、「現在の生計中心者の代になってから」の年数では「5年以上10年未満」となっている。「ホワイトカラー層」、「ブルーカラー層」は「現在の生計中心者になってから」が高く、その年数も20年未満が多い。

「自営業者層」はじめ、いずれの階層でも南丹市内から引っ越ししている割合が高い。合計値と比較すると、「経営者層」では「京都市内」、「宇治、城陽、京田辺」、「東京都」などが高い。「ホワイトカラー層」では「亀岡市内」と「その他の京都府内」。「ブルーカラー層」では「京都市」と「船井郡」。不安定就業層では、

「亀岡市」と「京都市」。「無業者層」では「その他の京都府内」と「その他の都道府県」からの転入が高いのが特徴である。

表Ⅱ－40 地域類型別にみた定住意識

	総 数	住 み つ づ け た い	引 越 し た い	引越し先				わ か ら な い	そ の 他
				市 内	市 外	府 外	決 め て い な い		
合 計	100% 823	(77.2) 635	(9.1) 75	14.7 11	20.0 15	13.3 10	42.7 32	(12.6) 104	(1.1) 9
Ⅰ 人口密度が高く世帯数が減少している地域	100% 124	(83.9) 104	(4.8) 6	50.0 3	16.7 1		16.7 1	(11.3) 14	
Ⅱ 人口密度がやや高く世帯数が減少している地域	100% 178	(83.1) 148	(7.3) 13	23.1 3	30.8 4		46.2 6	(7.9) 14	(1.7) 3
Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばいの地域	100% 189	(75.1) 142	(12.2) 23	8.7 2	13.0 3	30.4 7	39.1 9	(11.6) 22	(1.1) 2
Ⅳ 人口密度は中位で世帯数が増加している地域	100% 72	(56.9) 41	(18.1) 13		38.5 5	15.4 2	38.5 5	(23.6) 17	(1.4) 1
Ⅴ 人口密度低く世帯数は横ばいか低下している地域	100% 123	(78.0) 96	(9.8) 12	16.7 2	8.3 1	8.3 1	50.0 6	(12.2) 15	
Ⅵ 人口密度低く世帯数減少している地域	100% 137	(75.9) 104	(5.8) 8	12.5 1	12.5 1		62.5 5	(16.1) 22	(2.2) 3



表Ⅱ－41 地域類型別にみた居住期間

	総 数	親 の代 から	現在の生計中心者の 代になってから	1 年未 満	1 年以 上5 年未 満	5 年以 上10 年未 満	10 年以 上15 年未 満	15 年以 上20 年未 満	20 年以 上
合 計	100% 823	53.3 439	46.7 384	6.3 24	14.6 56	15.4 59	19.5 75	10.2 39	34.1 131
I 人口密度が高く世帯数が減少している地域	100% 124	79.0 98	21.0 26	7.7 2	7.7 2	26.9 7	3.8 1	3.8 1	50.0 13
Ⅱ 人口密度がやや高く世帯数が減少している地域	100% 178	53.4 95	46.6 83	1.2 1	6.0 5	12.0 10	12.0 10	9.6 8	59.0 49
Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばいの地域	100% 189	30.2 57	69.8 132	6.1 8	24.2 32	15.2 20	18.2 24	12.1 16	24.2 32
Ⅳ 人口密度は中位で世帯数が増加している地域	100% 72	1.4 1	98.6 71	9.9 7	14.1 10	19.7 14	45.1 32	11.3 8	
V 人口密度低く世帯数は横ばいか低下している地域	100% 123	78.9 97	21.1 26	3.8 1		23.1 6	26.9 7	7.7 2	38.5 10
Ⅵ 人口密度低く世帯数減少している地域	100% 137	66.4 91	33.6 46	10.9 5	15.2 7	4.3 2	2.2 1	8.7 4	58.7 27

表Ⅱ－42 階層構成別にみた定住意志

	総 数	住 みつ づけ たい	引 越 し たい	市 内	市 外	府 外	決 め て い ない	わ か ら ない	そ の 他
合 計	100% 823	(77.2) 635	(9.1) 75	14.7 11	20.0 15	13.3 10	42.7 32	(12.6) 104	(1.1) 9
経 営 者 層	100% 29	(75.9) 22	(13.8) 4				100.0 4	(6.9) 2	(3.4) 1
ホワイトカラー層	100% 113	(72.6) 82	(7.1) 8	25.0 2	12.5 1	12.5 1	50.0 4	(19.5) 22	(0.9) 1
ブルーカラー層	100% 75	(64.0) 48	(20.0) 15	6.7 1	20.0 3	13.3 2	40.0 6	(14.7) 11	(1.3) 1
不安定雇用者層	100% 121	(67.8) 82	(13.2) 16	12.5 2	31.3 5	12.5 2	43.8 7	(18.2) 22	(0.8) 1
自 営 業 者 層	100% 222	(82.9) 184	(5.0) 11	18.2 2	27.3 3	9.1 1	36.4 4	(11.7) 26	(0.5) 1
無 業 者 層	100% 263	(82.5) 217	(8.0) 21	19.0 4	14.3 3	19.0 4	33.3 7	(8.0) 21	(1.5) 4

表Ⅱ－43 階層構成別にみた居住期間

	総 数	親 の代 から	現在の生計中心者の代 になってから	1 年未 満	5 年未 満 1 年以 上	10 年未 満 5 年以 上	15 年未 満 10 年以 上	20 年未 満 15 年以 上	20 年以 上
合 計	100% 823	(53.3) 439	(46.7) 384	6.3 24	14.6 56	15.4 59	19.5 75	10.2 39	34.1 131
経 営 者 層	100% 29	(58.6) 17	(41.4) 12		8.3 1	33.3 4	16.7 2	16.7 2	25.0 3
ホワイトカラー層	100% 113	(35.4) 40	(64.6) 73	1.4 1	19.2 14	15.1 11	26.0 19	21.9 16	16.4 12
ブルーカラー層	100% 75	(32.0) 24	(68.0) 51	13.7 7	23.5 12	23.5 12	29.4 15	3.9 2	5.9 3
不安定雇用者層	100% 121	(51.2) 62	(48.8) 59	10.2 6	16.9 10	15.3 9	22.0 13	6.8 4	28.8 17
自 営 業 者 層	100% 222	(61.3) 136	(38.7) 86	5.8 5	11.6 10	17.4 15	16.3 14	11.6 10	37.2 32
無 業 者 層	100% 263	(60.8) 160	(39.2) 103	4.9 5	8.7 9	7.8 8	11.7 12	4.9 5	62.1 64

表Ⅱ－44 階層構成別にみた前住地

	現在の生計中心者の代 になってから	市 内	亀 岡 市	京 都 市	船 井 郡	綾 部・ 舞鶴・ 福知山	向日・ 長岡京	宇 治・ 城陽・ 京田辺	そ の 他 京 都 府 内	高 槻 市	枚 方 市	そ の 他 の 大 阪 府 内	兵 庫 県	滋 賀・ 奈良・ 和歌山	東 京 都	そ の 他 の 都 道 府 県
合 計	100% 384	46.4 178	7.6 29	13.8 53	2.9 11	1.8 7	1.3 5	1.0 4	6.3 24	1.6 6	0.8 3	3.6 14	2.1 8	1.3 5	0.8 3	8.9 34
経 営 者 層	100% 12	41.7 5	8.3 1	33.3 4				8.3 1							8.3 1	
ホワイトカラー層	100% 73	39.7 29	12.3 9	8.2 6	1.4 1	4.1 3		2.7 2	11.0 8	1.4 1	1.4 1	5.5 4	2.7 2		1.4 1	8.2 6
ブルーカラー層	100% 51	43.1 22	9.8 5	19.6 10	7.8 4	2.0 1			5.9 3	3.9 2				3.9 2		3.9 2
不安定雇用者層	100% 59	37.3 22	11.9 7	16.9 10	3.4 2	1.7 1	3.4 2		8.5 5	1.7 1	1.7 1		1.7 1	1.7 1	1.7 1	8.5 5
自 営 業 者 層	100% 86	61.6 53	4.7 4	5.8 5	3.5 3	1.2 1	2.3 2		3.5 3	1.2 1		5.8 5	2.3 2	1.2 1		7.0 6
無 業 者 層	100% 103	45.6 47	2.9 3	17.5 18	1.0 1	1.0 1	1.0 1	1.0 1	9.7 10	1.0 1	1.0 1	4.9 5	2.9 3	1.0 1		14.6 15

- (2) 暮らしの面でなんとかしなければならないと思っていること（表Ⅱ－45）
- i. 全体で最も高いのは「老後のこと」32.3%、次いで「生計中心者の病気・事故」28.2%、「年金が少ない」25.9%、「家族の病気・事故」23.2%と、いずれも社会保障に関わる内容に集中しているのが特徴といえる。
  - ii. また、「税金が高い」22.2%、「貯金ができない」21.2%、「保険料（税）が高い」20.6%などは、家計を圧迫している状況を現している内容である。
  - iii. さらに、「通院が困難」19.9%、「安心してかかれる医療機関が近くにない」16.5%などが高く、いずれも医療供給に関わる項目である。
  - iv. 「収入が不安定」17.5%、「賃金・事業収入が低い」13.3%は暮らしを営む基盤の不安定さを現している。
- このような、生活問題はそれぞれの階層によって違いがある。

表Ⅱ－45 階層構成別にみた暮らしの面での困りごと（複数回答）

暮らしの基盤																				
合計（平均の値）																				
無業者層																				
	総数	ない	あ	収入が不安定	賃金、事業収入が低い	少ない自由な時間や休日がある	通勤に時間がかかる	就職が困難	なしこの後継者がいない	失業や事業の不振	働き手の死亡	労働時間が長い	税金が高い	物価が高い	災害時のそなえ	通院が困難	療養機関が近くにない	安心してかかれる医療機関	子どもの通学・通園	移動が困難
合計	823	(25.0)	(75.0)	17.5	13.3	7.6	7.5	6.8	6.5	6.0	5.0	4.4	22.2	13.8	13.3	19.9	16.5	5.3	2.8	
経営者層	29	(37.9)	(62.1)	16.7	22.2	22.2	11.1	5.6	27.8	11.1	5.6	16.7	38.9	16.7	22.2	5.6	22.2	5.6		
ホワイトカラー層	113	(34.5)	(65.5)	1.4	10.8	9.5	16.2	6.8	1.4	1.4	1.4	5.4	16.2	9.5	12.2	16.2	14.9	8.1	4.1	
ブルーカラー層	75	(24.0)	(76.0)	5.3	14.0	10.5	22.8	3.5	3.5	1.8	5.3	8.8	21.1	17.5	17.5	19.3	19.3	15.8	3.5	
不安定雇用者層	121	(19.0)	(81.0)	21.4	17.3	9.2	12.2	13.3	5.1	10.2	5.1	3.1	27.6	15.3	21.4	16.3	15.3	5.1	2.0	
自営業者層	222	(24.8)	(75.2)	34.1	9.0	10.2	3.0	3.6	11.4	8.4	8.4	7.2	24.0	11.4	20.4	15.0	15.0	4.2	1.8	
無業者層	263	(22.8)	(77.2)	11.3	14.8	2.0	1.0	7.4	3.9	4.4	3.4		19.2	15.3	2.0	28.6	17.7	2.5	3.4	
厚生（共済）年金が中心	79	(20.3)	(79.7)	11.1	1.6	3.2	1.6	6.3	4.8	6.3	6.3		22.2	11.1	19.0	30.2	23.8	1.6	3.2	
国民年金のみ	104	(19.2)	(80.8)	11.9		2.4	1.2	6.0	3.6	1.2			16.7	20.2	14.3	36.9	16.7		6.0	
生活保護世帯	9	(33.3)	(66.7)	16.7				16.7		16.7				16.7	50.0	16.7	16.7			

以下、階層構成別にみても、「経営者層」、「ホワイトカラー層」では、「ない」が3割を超え合計値に比べ高い割合。一方「不安定雇用者層」は「ある」とする割合が8割を超えて高い。「経営者層」では、暮らしの基盤である「賃金・事業収入が低い」、「自由な時間や休日がない」「通勤に時間がかかる」「仕事の後継者いない」「失業や事業の不振」「労働時間が長い」などといった仕事、雇用労働に関する内容や、「税金が高い」「災害時のそなえ」、さらには「安心してかかれる医療機関が近くにない」といった医療供給に関する項目が高い割合である。暮らしを支える条件では「近所づきあいがむずかしい」が高く、国・自治体の責任による社会保障・社会福祉に関しては「老後のこと」「保険料（税）が高い」「入院費用がかかる」などが高い。暮らしの中身に関しては「家族の病気・事故」「病人や老人・障がい者の介護」「貯金ができない」「借金・ローンの返済」「結婚が難しい」「住まいのこと」「食生活のこと」など多くの項目が高い割合である。

暮らしを支える条件										国・自治体による社会保障・社会福祉										暮らしの中身															
地域での共同作業に出るのがむずかしい	7.8	48	16.7	3	5.4	4	8.8	6.1	6.0	11.3	23	11.1	11.9	16.7	1	33.3	2	16.7	1	50.0	3	50.0	3	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1
近所づきあいがむずかしい	6.5	40	5.6	1	4.1	3	3.5	5.1	4.8	9.4	19	11.1	9.5	9.5	8	33.3	2	16.7	1	50.0	3	50.0	3	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1
家庭での対話が少ない	4.4	27	5.6	1	4.1	3	3.5	1.0	4.2	6.4	13	9.5	4.8	6.0	4	33.3	2	16.7	1	50.0	3	50.0	3	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0	1
相談相手がいらない	3.6	22	5.6	1	1.4	1		2.0	5.4	4.4	9	4.8	6.0	4.2	7	33.0	67	33.0	3	33.0	5	33.0	28	33.0	5	33.0	1	33.0	1	33.0	1	33.0	1	33.0	1
老後のこと	32.3	199	50.0	9	28.4	21	21.1	31.6	35.3	33.0	67	31.7	31.7	31.7	31.7	33.0	67	33.0	3	33.0	5	33.0	28	33.0	5	33.0	1	33.0	1	33.0	1	33.0	1	33.0	1
年金が少ない	25.9	160	16.7	3	12.2	9	8.8	24.5	26.9	36.5	74	36.5	36.5	36.5	36.5	36.5	74	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3	36.5	3
保険料（税）が高い	20.6	127	33.3	6	20.3	15	10.5	24.5	26.3	15.8	32	19.0	15.5	15.5	13	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12	20.6	12
医療費が高い	15.9	98	11.1	2	13.5	10	8.8	20.4	16.2	16.7	34	20.6	10.7	10.7	9	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32	15.8	32
入院費用がかかる	6.2	38	11.1	2	2.7	2	1.8	7.1	7.2	6.9	14	11.1	3.6	3.6	3	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34	6.2	34
生計中心者の病気・事故	28.2	174	27.8	5	12.2	9	19.3	25.5	28.7	37.4	76	42.9	27.4	27.4	3	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76	28.2	76
家族の病気・事故	23.2	143	27.8	5	13.5	10	21.1	26.5	22.8	25.6	52	31.7	17.9	17.9	15	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52	23.2	52
病人や老人・障がい者の介護	10.4	64	22.2	4	12.2	9	5.3	8.2	11.4	10.3	21	9.5	10.7	10.7	9	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21	10.4	21
貯金ができない	21.2	131	33.3	6	23.0	17	22.8	24.5	25.1	14.3	29	20.6	1.6	1.6	1	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29	21.2	29
借金・ローンの返済	11.3	70	22.2	4	18.9	14	14.0	12.2	16.2	2.5	5	1.6	2.4	2.4	2	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5	11.3	5
家計の赤字	9.6	59	11.1	2	9.5	7	7.0	12.2	11.4	7.4	15	6.3	6.0	6.0	5	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15	9.6	15
子どもの教育・進学	8.8	54	5.6	1	18.9	14	19.3	8.2	8.4	3.0	6	3.2				8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6	8.8	6
子育てのこと	6.0	37	5.6	1	13.5	10	14.0	7.1	3.6	2.5	5	3.2				6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5	6.0	5
結婚が難しい	6.5	40	11.1	2	5.4	4	3.5	9.2	9.0	3.9	8	3.2				6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8	6.5	8
住まいのこと	4.5	28	11.1	2	2.7	2	5.3	5.1	4.8	3.9	8	6.3	3.6	3.6	3	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8	4.5	8
食生活のこと	4.5	28	11.1	2	2.7	2	3.5	3.1	2.4	7.4	15	7.9	6.0	6.0	5	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15	4.5	15
家事・洗濯・掃除などの家事	4.2	26	5.6	1	4.1	3		1.0	4.8	6.4	13	6.3	6.0	6.0	5	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13	4.2	13
その他	1.9	12			1.4	1	3.5		0.6	3.9	8	4.8				1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8	1.9	8



「ホワイトカラー層」では、くらしの基盤の「通勤時間がかかる」、くらしの中身における「借金・ローンの返済」、「子どもの教育・進学」、「子育てのこと」が高い割合である他は合計値より低いか同じ割合のものがほとんどである。

「ブルーカラー層」では、くらしの基盤における「通勤に時間がかかる」「労働時間が長い」「物価が高い」「災害時の備え」「子どもの通学・通園」が高いほか、くらしの中身で「子どもの教育・進学」「子育てのこと」が高い割合である他は、ホワイトカラー層と同じく、合計値より低いか同じ割合のものがほとんどである。

「不安定雇用者層」では、「収入が不安定」「賃金・事業収入が低い」、「通勤に時間がかかる」「就職が困難」といった仕事に関する項目に加え、「税金が高い」「災害時のそなえ」などが高い割合となっている。国・自治体の責任による社会保障・社会福祉に関しては、「保険料（税）が高い」、くらしの中身に関しては「家族の病気・事故」「貯金ができない」などが高い割合である。

「自営業者層」では、くらしの基盤では「収入が不安定」「仕事の後継者いない」「働き手の死亡」「災害時の備え」などが高く、国・自治体による社会保障・社会福祉に関しては「保険料（税）が高い」、くらしの中身に関しては「貯金ができない」「借金・ローンの返済」などが高い割合である。

「無業者層」では、くらしの基盤では「通院が困難」、国・自治体の責任による社会保障・社会福祉に関しては「年金が少ない」、くらしの中身に関しては「生計中心者の病気・事故」が高いが、他は合計値より低いか同じ割合のものがほとんどである。なお、「無業者層」の中で、厚生年金や共済年金などが中心的な収入、あるいは国民年金のみで生活している世帯、生活保護世帯を抽出してみると、いずれの世帯においても、「くらしを支える条件」の項目が高いのが特徴的である。

(3) くらしの単位である世帯の状況（表Ⅱ－46、表Ⅱ－47、表Ⅱ－48、表Ⅱ－49－①②③）生活問題は世帯構成によっても違いがある。

世帯構成でもっとも多かったのは「夫婦と子」29.2％、次いで「夫婦のみ」26.4％、「単身」世帯が16.9％、「三世帯」が15.4％の順である。

階層構成別にみても、「経営者層」では「夫婦と子」「夫婦と親」「夫婦のみ」といった核家族が高い割合ある。「ホワイトカラー層」と「自営業者層」はともに「三世帯」「夫婦と子」の割合が高く、「ブルーカラー層」では「夫婦と子」、「不安定雇用者層」では「三世帯」がそれぞれ高い。「無業者層」では「夫婦のみ」と「単身」の割合が高いのが特徴である。

性別年齢別に世帯構成をみると、「男性」で「夫婦と子」、「夫婦のみ」の世帯が高い割合である。「女性」では「一人親と子」、「単身」の割合が高い。男女ともに年齢が高くなるにつれ世帯が縮小傾向にある。

「未婚の子どもいる世帯」は、全体で42％、「小学生以下の子どものいる世帯」の割合は6.8％であった。階層構成別では、「ホワイトカラー層」「ブルーカラー層」「不安定雇用者層」で「未婚の子どもいる割合」が高く。そのうち「小学生以下の子どものいる割合」が高いのは「ホワイトカラー層」と「ブルーカラー層」である。

なんらかの介護が必要な家族のいる世帯は16.3％。内訳としては、「母親」37.3％、「生計中心者」17.9％、「父親」17.2％の割合が高い。合計値と比較して階層構成別で介護者家族のいる割合が高いのは、「経営者層」「無業者層」である。「経営者層」「ホ

ワイトカラー層」では、「父親」「母親」、「ブルーカラー層」「不安定就業者層」では「母親」、「自営業者層」では「未婚の子ども」「父親」「母親」、「無業者層」では「生計中心者」「配偶者」が高い割合となっている。

介護の必要な方の所在地は「同居」が67.9％と高く、次いで「入所している」が11.9％である。合計値と比較すると、「ホワイトカラー」「自営業者層」「無業者層」で「同居している」割合が高く、「ブルーカラー層」「不安定雇用者層」で「入院している」、「経営者層」「ブルーカラー層」で「入所している」が高い。また、「経営者層」と「ホワイトカラー層」では「近所に住んでいる」割合も高い。

主な介護者は、「配偶者」が40.3％、「生計中心者」29.1％、「介護職など」が20.9％である。合計値と比較すると「経営者層」では「配偶者」が高く、「ホワイトカラー層」では「配偶者」「子どもの配偶者」「母親」「きょうだい」が高い。「ブルーカラー層」では「父親」「介護職など」が高く、「不安定雇用者層」では「未婚の子ども」「父親」「介護職など」が高い。「自営業者層」では「配偶者」と「母親」、「無業者層」では「生計中心者」がそれぞれ高い割合となっている。

表Ⅱ－46 階層構成別にみた世帯構成

	総 数	三 世 帯	夫 婦 と 子	夫 婦 と 親	一 人 親 と 子	夫 婦 の み	単 身	そ の 他
合 計	100% 823	15.4 127	29.2 240	5.6 46	5.7 47	26.4 217	16.9 139	0.9 7
経 営 者 層	100% 29	10.3 3	34.5 10	10.3 3	3.4 1	41.4 12		
ホワイトカラー層	100% 113	23.9 27	46.9 53	5.3 6	6.2 7	14.2 16	3.5 4	
ブルーカラー層	100% 75	10.7 8	58.7 44	6.7 5	2.7 2	14.7 11	6.7 5	
不安定雇用者層	100% 121	19.0 23	28.9 35	8.3 10	5.8 7	23.1 28	14.0 17	0.8 1
自 営 業 者 層	100% 222	21.2 47	33.3 74	6.3 14	6.3 14	24.3 54	8.1 18	0.5 1
無 業 者 層	100% 263	7.2 19	9.1 24	6.1 16	6.1 16	36.5 96	36.1 95	1.9 5

表Ⅱ－47 世帯構成別性別年齢別構成

	総 数	男								女							
		性	25歳未満	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	性		25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	
合 計	100% 823	(83.0) 683	1.2 8	4.5 31	12.4 85	19.2 131	26.9 184	16.4 112	19.3 132	(17.0) 140	0.7 1	7.1 10	6.4 9	12.9 18	22.1 31	50.7 71	
三 世 帯	100% 127	(93.7) 119		1.7 2	8.4 10	32.8 39	29.4 35	16.0 19	11.8 14	(6.3) 8		25.0 2	12.5 1	12.5 1	37.5 3	12.5 1	
夫 婦 と 子	100% 240	(96.7) 232	0.4 1	8.6 20	23.7 55	26.7 62	21.1 49	11.6 27	7.8 18	(3.3) 8		62.5 5	12.5 1	12.5 1	12.5 1		
夫 婦 と 親	100% 46	(95.7) 44				11.4 5	70.5 31	13.6 6	4.5 2	(4.3) 2				50.0 1		50.0 1	
一人親と子	100% 47	(51.1) 24		4.2 1	16.7 4	29.2 7	29.2 7	4.2 1	16.7 4	(48.9) 23		8.7 2	17.4 4	30.4 7	34.8 8	8.7 2	
夫 婦 の み	100% 217	(96.8) 210	0.5 1	1.9 4	3.8 8	5.7 12	23.3 49	26.2 55	38.6 81	(3.2) 7	14.3 1	14.3 1	14.3 1	14.3 1	42.9 3		
単 身	100% 139	(35.3) 49	12.2 6	8.2 4	16.3 8	10.2 5	22.4 11	6.1 3	24.5 12	(64.7) 90			2.2 2	7.8 7	16.7 15	73.3 66	
そ の 他	100% 7	(71.4) 5				20.0 1	40.0 2	20.0 1	20.0 1	(28.6) 2					50.0 1	50.0 1	

表Ⅱ－48 階層構成別にみた小学生以下の子どもの有無とその数

	総 数	未婚の子どもはいない世帯	未婚の子どもがいる世帯	小学生以下の子どもがいる世帯				
					一人	二人	三人	四人
合 計	100% 823	(58.0) 477	(42.0) 346	(6.8) 56	66.1 37	28.6 16	3.6 2	1.8 1
経 営 者 層	100% 29	(55.2) 16	(44.8) 13	(6.9) 2	100.0 2			
ホワイトカラー層	100% 113	(31.0) 35	(69.0) 78	(14.2) 16	81.3 13	12.5 2	6.3 1	
ブルーカラー層	100% 75	(32.0) 24	(68.0) 51	(22.7) 17	41.2 7	47.1 8	5.9 1	5.9 1
不安定雇用者層	100% 121	(53.7) 65	(46.3) 56	(8.3) 10	60.0 6	40.0 4		
自 営 業 者 層	100% 222	(52.7) 117	(47.3) 105	(4.5) 10	80.0 8	20.0 2		
無 業 者 層	100% 263	(83.7) 220	(16.3) 43	(0.4) 1	100.0 1			

表Ⅱ－49－① 階層構成別にみた介護の必要な家族

	総 数	な い 介 護 の 必 要 な 家 族 は い る	な 介 護 の 必 要 な 家 族 が い る	者 生 計 中 心	配 偶 者	ど も 未 婚 の 子	父 親	母 親	き よ う た い	孫	そ の 他
合 計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	17.9 24	12.7 17	5.2 7	17.2 23	37.3 50	2.2 3	2.2 3	11.2 15
経 営 者 層	100% 29	(79.3) 23	(20.7) 6				50.0 3	50.0 3			
ホワイトカラー層	100% 113	(85.0) 96	(15.0) 17				58.8 10	41.2 7	5.9 1		
ブルーカラー層	100% 75	(88.0) 66	(12.0) 9				11.1 1	66.7 6			11.1 1
不安定雇用者層	100% 121	(86.8) 105	(13.2) 16	6.3 1	6.3 1			75.0 12			12.5 2
自 営 業 者 層	100% 222	(88.7) 197	(11.3) 25		8.0 2	16.0 4	28.0 7	56.0 14	4.0 1	4.0 1	4.0 1
無 業 者 層	100% 263	(76.8) 202	(23.2) 61	37.7 23	23.0 14	4.9 3	3.3 2	13.1 8	1.6 1	3.3 2	16.4 10

表Ⅱ－49－② 階層構成別にみた介護の必要な家族の所在

	総 数	な い 家 族 は い る	な 介 護 の 必 要 な 家 族 が い る	い る 同 居 し て	い る 入 院 し て	い る 入 所 し て	ん で 近 所 に 住 む	そ の 他
合 計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	67.9 91	5.2 7	11.9 16	6.0 8	10.4 14
経 営 者 層	100% 29	(79.3) 23	(20.7) 6	50.0 3		33.3 2	16.7 1	
ホワイトカラー層	100% 113	(85.0) 96	(15.0) 17	76.5 13		5.9 1	17.6 3	
ブルーカラー層	100% 75	(88.0) 66	(12.0) 9	33.3 3	22.2 2	44.4 4		22.2 2
不安定雇用者層	100% 121	(86.8) 105	(13.2) 16	43.8 7	25.0 4	12.5 2	6.3 1	12.5 2
自 営 業 者 層	100% 222	(88.7) 197	(11.3) 25	76.0 19	4.0 1	8.0 2	8.0 2	4.0 1
無 業 者 層	100% 263	(76.8) 202	(23.2) 61	75.4 46		8.2 5	1.6 1	14.8 9

表Ⅱ－49－③ 階層構成別にみた介護者

	総 数	な い 家 族 は い る	な 介 護 の 必 要 な 家 族 が い る	者 生 計 中 心	配 偶 者	ど も 未 婚 の 子	る 結 婚 し て い る 子 ど も	配 偶 者 子 ど も	父 親	母 親	き よ う た い	孫	ど 介 護 職 な
合 計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	29.9 40	40.3 54	3.0 4	2.2 3	2.2 3	2.2 3	3.0 4	0.7 1	1.5 2	20.9 28
経 営 者 層	100% 29	(79.3) 23	(20.7) 6	16.7 1	83.3 5								16.7 1
ホワイトカラー層	100% 113	(85.0) 96	(15.0) 17	29.4 5	52.9 9			5.9 1		11.8 2	5.9 1		17.6 3
ブルーカラー層	100% 75	(88.0) 66	(12.0) 9	11.1 1	22.2 2				22.2 2				44.4 4
不安定雇用者層	100% 121	(86.8) 105	(13.2) 16	12.5 2	37.5 6	12.5 2			6.3 1				31.3 5
自 営 業 者 層	100% 222	(88.7) 197	(11.3) 25	28.0 7	68.0 17					8.0 2			8.0 2
無 業 者 層	100% 263	(76.8) 202	(23.2) 61	39.3 24	24.6 15	3.3 2	4.9 3	3.3 2				3.3 2	21.3 13

(4) 暮らしの器である住まいの状況（表Ⅱ－16、表Ⅱ－50）

「一戸建ての持ち家」が91.1%を占めている。次いで「一戸建ての民間借家・賃貸マンション」が3.4%となっている。

- ・地域類型別にみると、「一戸建ての持ち家」の割合が「Ⅳ 人口密度は中位で世帯数が増加している地域」は100%、「Ⅴ 人口密度低く世帯数は横ばいか低下している地域」が97.6%と高い割合。一方、「Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばいの地域」では83.6%と合計値に比べやや低い値となっている。「Ⅰ 人口密度が高く世帯数が減少している地域」の「一戸建ての民間借家・賃貸マンション」、「Ⅱ 人口密度がやや高く世帯数が減少している地域」の「公営・公団の賃貸住宅」、「Ⅲ 人口密度は中位で世帯数が増加ないし横ばいの地域」の「民間アパート」、「Ⅵ 人口密度低く世帯数減少している地域」の「社宅・寮」はそれぞれ合計値に比べ高い。
- ・階層構成別にみても「経営者層」で「一戸建ての持ち家」、「ホワイトカラー層」で「社宅・寮」が合計値より高い。一方「不安定雇用者層」では「一戸建ての持ち家」の割合が合計値より低いのが特徴である。

(5) 家計支出の構造があらわすくらしむき（表Ⅱ－51、表Ⅱ－52、図Ⅱ－3）

調査世帯のくらしむきをあらわす家計の状況については、家計支出の中で「かさむもの」と「きりつめているもの」のそれぞれの費目および相互の関連についてみた結果、以下の通りとなった。

「主食費」「副食費」「光熱費」「水道代」などは生きていく上で欠かすことのできない基本的に必要なものである。これらの項目は「かさむもの」でも「きりつめているもの」でも2割を超えており、くらしむきの厳しさをあらわしている。

住宅は暮らしの器として必要不可欠なものである。2割弱がかさむとし、家計を圧迫しているのがローン化された住宅費である。

「ガソリン代・車の維持費」や「交通費・タクシー代」などは通勤・通学、買い物や通院などの外出するためには必要不可欠の支出である。4割以上の世帯がガソリン代・車の維持費がかさみ、2割弱はきりつめている現状にある。また、「交際費」や「電話代・通信代」は人との交流のための必要な経費である。特に「交際費」については約3割がかさむとし、1割強がきりつめている。外出にかかる費用や人と交流する費用が家計を圧迫し、きりつめられることは社会的な関係が細められ弱められていく傾向といえる。

「医者・薬代」「看護・介護のための費用は」はともにいのち・健康に関わる費用であるが2割の世帯がかさむとしている。一方、これらの費目をきりつめているということはいのちや健康を削っているという深刻なくらしの状況を反映しているが、6.1%は「医者代・薬代」をきりつめていると回答している。

切りつめることのできない項目としては、教育や養育費用である。子どもの教育にかかる費用も家計を圧迫している。「教育費」については13.7%がかさむとしており、「子どもや孫の養育費」は8.7%がかさむと回答している。

教育や養育と同じく、きりつめられない経費として「公的年金や医療保険などの保険代」「所得税などの税金」「消費税」がある。これらは義務的に支払わなければならない固定的経費である。これらの項目のうち特に「公的年金や医療保険などの保険料」については2割以上がかさむと回答している。

「外食費」「酒・たばこ」「衣服・身のまわりの品代」「娯楽費」「旅行費」「こずかい」などは人間らしいくらしである、くらしの楽しみの費用であるが、いずれも大きく切りつめられている。特に「外食費」や「娯楽費」「旅行費」などは3割を超えている。その他、生活を維持する上での経費や将来への蓄えや民間の保険などの項目では、「貯金」が13.8%、「民間の生命保険などの掛け金」22.4%がきりつめている。同時に「民間の生命保険などの掛け金」では18.2%がかさむと回答している。

階層別にみても、「経営者層」で「主食」「副食」、「ガソリン代・車の維持費」「交際費」「介護・看護のための費用」「公的年金や医療保険などの保険料」「所得税などの税金」「消費税」「外食費」「酒・タバコ代」「民間の生命保険などの掛け金」などがかさむと回答している割合が合計値に比べ高い。また、かさむものが「ある」と回答している割合も96.6%と高い割合。きりつめているものでは「副食費」「水道代」「ガソリン代・車の維持費」「電話代・通信費」「衣服身の回りの品物」「家具家庭用品代」「こずかい」などであり、くらしむきにはゆとりがない。

「ホワイトカラー層」では「主食」「副食」「水道代」、「住宅ローン」「電話代・通信代」「教育費」「子どもや孫の養育費」「民間の生命保険の掛け金」などがかさむとする

表Ⅱ－50 階層構成別にみた住まい

	総 数	一戸建ての持ち家	分譲のマンション・棟続きの持ち家	公営・公団の賃貸住宅	一戸建ての民間借家・賃貸マンション	民間アパート	社宅・寮	その他
合 計	100% 823	91.1 750	0.7 6	1.3 11	3.4 28	1.9 16	1.3 11	0.1 1
経 営 者 層	100% 29	96.6 28			3.4 1			
ホワイ <span>ト</span> カラー層	100% 113	92.0 104		1.8 2	0.9 1	0.9 1	4.4 5	
ブル ー カ ラ ー 層	100% 75	89.3 67	2.7 2		2.7 2	4.0 3	1.3 1	
不 安 定 雇 用 者 層	100% 121	81.8 99	3.3 4	4.1 5	3.3 4	5.0 6	2.5 3	
自 営 業 者 層	100% 222	92.8 206			5.0 11	0.9 2	0.9 2	0.5 1
無 業 者 層	100% 263	93.5 246		1.5 4	3.4 9	1.5 4		



割合が合計値を上回っている。きりつめているものでは「光熱費」「交際費」「衣服・身の回りの品代」「外食費」「娯楽費」「こずかい」「貯金」などであり、くらし向きにゆとりがない状況になっている。

「ブルーカラー層」では、「住宅ローン」「ガソリン代や車の維持費」「教育費」「子どもや孫の養育費」「酒・タバコ代」「民間の生命保険の掛け金」などが合計値より高い割合であり、「ある」とする回答も94.7%と高い。また、きりつめているものが「ある」とする回答も82.7%と高い割合となっている。

「不安定雇用者層」では、「主食費」「水道代」「住宅ローン」「ガソリン代や車の維持費」「教育費」「酒・タバコ代」「民間の生命保険の掛け金」などの項目が合計値より高い。また「ある」とする割合も95.9%と高い割合である。きりつめているものでは「主食費」「こずかい」「貯金」が高い割合であり、「ある」とする回答も81.8%と高いなど、くらしむきは苦しい状況である。

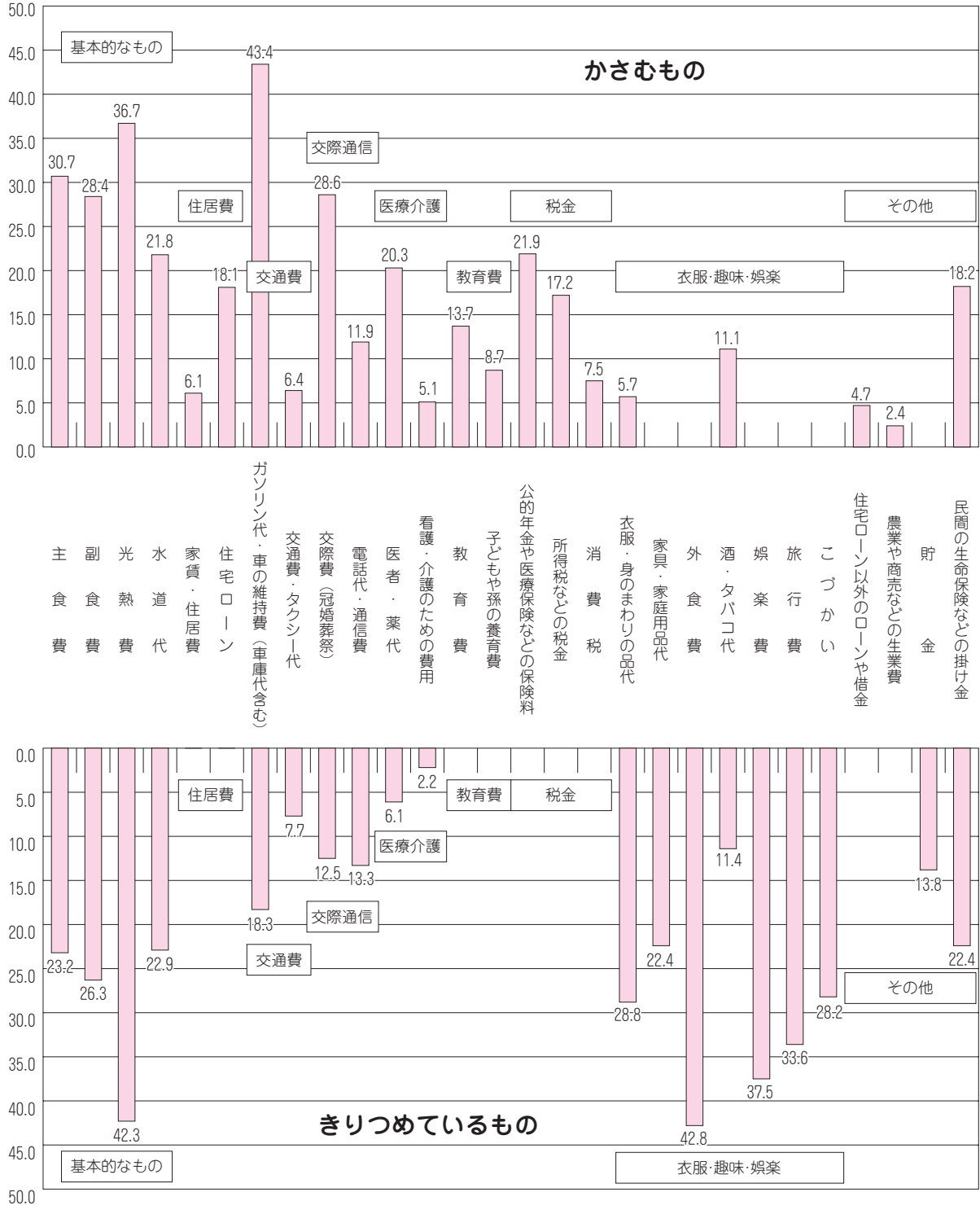
「自営業者層」では、「光熱費」「ガソリン代や車の維持費」「交際費」「電話代・通信代」「公的年金や医療保険などの保険料」「所得税などの税金」「消費税」「酒・タバコ代」「住宅ローン以外のローンや借金」などが合計値より高い。きりつめているものでは「電話代・通信代」「娯楽費」「旅行費」などであり、きりつめているものが「ある」と回答する割合も75.2%と高い割合となっており、くらし向きにゆとりがない状況になっている。

「無業者層」では、かさむもの、きりつめるものがともに「ない」とする割合が合計値に比べ高い。すでにきりつめたくらしが常態であり、あえてかさむような内容もあがってこない。その中でも「医者・薬代」が合計値と比較しても高い割合となっておりかなりくらしむきは厳しい状況である。それでも、きりつめているものの項目で「副食費」「光熱費」「交通費・タクシー代」などが合計値より高い割合となっており、いっそうの苦しさがあられている。なお、年金で生活している世帯においても「医者・薬代」はかさむとする割合が高く、生活保護世帯では「看護・介護のための費用」が高いのが特徴である。きりつめている項目では年金で生活している世帯では「主食費」「交通費・タクシー代」「交際費」などの項目が高く、生活保護世帯では多くの項目が合計値より高いなど、一段と苦しい状況となっている。

以上の家計構造からくらしむきをとらえるならば、

- i. 衣服や家具、外食費や娯楽費などがかさんでくる状況だと自立の成り立つ限界があらわれてきている。
  - ii. 「住宅ローン」や「ガソリン代・車の維持費」「交際費」や税金や公的年金などの保険料が家計を圧迫しゆとりを奪っている。
  - iii. 「副食費」や「光熱費」、「教育費」「子どもの養育費」がかさんでくると、くらしに「ゆとりがなくなってきた」状況をあらわしている。
  - iv. 「主食」をきりつめているということはくらしむきが、「苦しくなってきた」状況をあらわしている。
  - v. 「医者・薬代」、「交通費」がかさむ、あるいは「副食費」、「光熱費」、「交通費」などをきりつめていると「かなり苦しい」状況をあらわしている。
- といった結果となっていることがわかる。

図Ⅱ－３ 家計支出の構造



表Ⅱ－51 階層構成別にみたかさむもの（複数回答）

	総 数	な い	あ る	主 食 費	副 食 費	光 熱 費	水 道 代	家賃・住居費	住宅ローン	ガソリン代・車の維持費（車庫代含む）	交通費・タクシー代
合 計	100% 823	(14.6) 120	(85.4) 703	30.7 216	28.4 200	36.7 258	21.8 153	6.1 43	18.1 127	43.4 305	6.4 45
経 営 者 層	100% 29	(3.4) 1	(96.6) 28	39.3 11	35.7 10	32.1 9	21.4 6		21.4 6	50.0 14	3.6 1
ホワイトカラー層	100% 113	(12.4) 14	(87.6) 99	36.4 36	32.3 32	33.3 33	26.3 26	3.0 3	33.3 33	40.4 40	4.0 4
ブルーカラー層	100% 75	(5.3) 4	(94.7) 71	31.0 22	23.9 17	29.6 21	16.9 12	7.0 5	39.4 28	52.1 37	4.2 3
不安定雇用者層	100% 121	(4.1) 5	(95.9) 116	36.2 42	29.3 34	38.8 45	26.7 31	8.6 10	23.3 27	50.0 58	7.8 9
自 営 業 者 層	100% 222	(16.2) 36	(83.8) 186	28.0 52	26.3 49	43.5 81	19.9 37	4.3 8	15.6 29	55.4 103	4.8 9
無 業 者 層	100% 263	(22.8) 60	(77.2) 203	26.1 53	28.6 58	34.0 69	20.2 41	8.4 17	2.0 4	26.1 53	9.4 19
厚生（共済）年金が中心	100% 79	(21.5) 17	(78.5) 62	17.7 11	14.5 9	19.4 12	19.4 12	6.5 4		17.7 11	8.1 5
国民年金のみ	100% 104	(26.9) 28	(73.1) 76	28.9 22	34.2 26	39.5 30	18.4 14	9.2 7	1.3 1	23.7 18	11.8 9
生活保護世帯	100% 9	(22.2) 2	(77.8) 7	42.9 3	28.6 2	28.6 2				14.3 1	42.9 3

表Ⅱ－52 階層構成別にみたきりつめているもの（複数回答）

	総 数	な い	あ る	主 食 費	副 食 費	光 熱 費	水 道 代	ガソリン代・車の維 持費（車庫代含む）	交 通費・タクシ ー代
合 計	100% 823	(28.8) 237	(71.2) 586	23.2 136	26.3 154	42.3 248	22.9 134	18.3 107	7.7 45
経 営 者 層	100% 29	(27.6) 8	(72.4) 21	23.8 5	33.3 7	42.9 9	33.3 7	23.8 5	4.8 1
ホワイトカラー層	100% 113	(28.3) 32	(71.7) 81	19.8 16	23.5 19	45.7 37	22.2 18	19.8 16	6.2 5
ブルーカラー層	100% 75	(17.3) 13	(82.7) 62	14.5 9	16.1 10	30.6 19	17.7 11	16.1 10	4.8 3
不安定雇用者層	100% 121	(18.2) 22	(81.8) 99	34.3 34	26.3 26	40.4 40	23.2 23	16.2 16	8.1 8
自 営 業 者 層	100% 222	(24.8) 55	(75.2) 167	21.6 36	27.5 46	43.1 72	21.0 35	19.2 32	7.2 12
無 業 者 層	100% 263	(40.7) 107	(59.3) 156	23.1 36	29.5 46	45.5 71	25.6 40	17.9 28	10.3 16
	厚生（共済）年金が中心	100% 79	(46.8) 37	(53.2) 42	26.2 11	21.4 9	40.5 17	19.0 8	11.9 5
	国民年金のみ	100% 104	(40.4) 42	(59.6) 62	19.4 12	27.4 17	43.5 27	30.6 19	9.7 6
	生活保護世帯	100% 9	(44.4) 4	(55.6) 5	40.0 2	40.0 2	80.0 4	40.0 2	20.0 1

交際費（冠婚葬祭）	電話代・通信費	医者・薬代	看護・介護のための費用	公的年金や医療保険などの保険料	教育費	子どもや孫の養育費	所得税などの税金	消費税	外食費	酒・タバコ代	住宅ローン以外のローンや借金	農業や商売などの生業費	民間の生命保険などの掛け金	その他
28.6 201	11.9 84	20.3 143	5.1 36	21.9 154	13.7 96	8.7 61	17.2 121	7.5 53	5.7 40	11.1 78	4.7 33	2.4 17	18.2 128	1.0 7
35.7 10	7.1 2	10.7 3	10.7 3	28.6 8	7.1 2	10.7 3	32.1 9	17.9 5	10.7 3	14.3 4	7.1 2	3.6 1	35.7 10	
23.2 23	16.2 16	13.1 13	4.0 4	14.1 14	32.3 32	16.2 16	12.1 12	6.1 6	8.1 8	11.1 11	5.1 5	1.0 1	25.3 25	
15.5 11	9.9 7	11.3 8	2.8 2	12.7 9	22.5 16	16.9 12	12.7 9	5.6 4	4.2 3	15.5 11	4.2 3	1.4 1	23.9 17	1.4 1
27.6 32	9.5 11	20.7 24	4.3 5	22.4 26	18.1 21	10.3 12	13.8 16	3.4 4	5.2 6	14.7 17	3.4 4	2.6 3	23.3 27	1.7 2
33.9 63	17.2 32	19.9 37	5.9 11	25.3 47	12.9 24	7.5 14	25.8 48	13.4 25	5.4 10	14.5 27	8.6 16	4.3 8	20.4 38	0.5 1
30.5 62	7.9 16	28.6 58	5.4 11	24.6 50	0.5 1	2.0 4	13.3 27	4.4 9	4.9 10	3.9 8	1.5 3	1.5 3	5.4 11	1.5 3
38.7 24	8.1 5	27.4 17	4.8 3	29.0 18		3.2 2	19.4 12	3.2 2	4.8 3	3.2 2		1.6 1	4.8 3	
35.5 27	9.2 7	30.3 23	7.9 6	27.6 21		1.3 1	13.2 10	3.9 3	3.9 3	3.9 3		1.3 1	7.9 6	1.3 1
28.6 2	14.3 1	14.3 1	14.3 1	14.3 1						14.3 1				

交際費（冠婚葬祭）	電話代・通信費	医者・薬代	看護・介護のための費用	衣服・身のまわりの品代	家具・家庭用品代	外食費	酒・タバコ代	娯楽費	旅行費	こづかい	貯金	その他
12.5 73	13.3 78	6.1 36	2.2 13	42.8 251	22.4 131	28.8 169	11.4 67	37.5 220	33.6 197	28.2 165	13.8 81	0.7 4
9.5 2	28.6 6	9.5 2		47.6 10	28.6 6	23.8 5	14.3 3	33.3 7	28.6 6	33.3 7		
13.6 11	7.4 6	3.7 3	1.2 1	49.4 40	23.5 19	35.8 29	13.6 11	49.4 40	33.3 27	32.1 26	17.3 14	
1.6 1	12.9 8	4.8 3	1.6 1	37.1 23	17.7 11	29.0 18	12.9 8	30.6 19	33.9 21	30.6 19	8.1 5	
11.1 11	10.1 10	5.1 5	2.0 2	40.4 40	18.2 18	29.3 29	9.1 9	40.4 40	29.3 29	32.3 32	20.2 20	2.0 2
15.0 25	16.8 28	7.2 12	2.4 4	43.1 72	25.1 42	29.9 50	10.8 18	44.3 74	43.7 73	29.3 49	15.0 25	0.6 1
14.7 23	12.8 20	7.1 11	3.2 5	42.3 66	22.4 35	24.4 38	11.5 18	25.6 40	26.3 41	20.5 32	10.9 17	0.6 1
19.0 8	11.9 5	4.8 2		45.2 19	19.0 8	38.1 16	11.9 5	21.4 9	21.4 9	21.4 9	11.9 5	
17.7 11	14.5 9	6.5 4	4.8 3	37.1 23	24.2 15	17.7 11	9.7 6	25.8 16	35.5 22	19.4 12	11.3 7	1.6 1
	20.0 1			60.0 3	40.0 2	40.0 2	40.0 2	20.0 1				

(6) 健康状態

① 生計中心者の健康状態（表Ⅱ－53、図Ⅱ－4）

生計中心者の健康状態では「具合の悪いところがある」が75.7%、「どこも悪くない」は24.3%であった。特に高いのは、「血圧が高い・低い」32.3%、「肩・首筋がこる」26.3%、「背中や腰が痛い・だるい」24.2%などの身体的な疲れによる症状などであり、2割を超えている。次いで「疲れがとれない」19.3%、「タバコがやめられない」19.1%、「眼が疲れる」18.9%などの精神的ストレスによる症状が2割弱の値となっている。

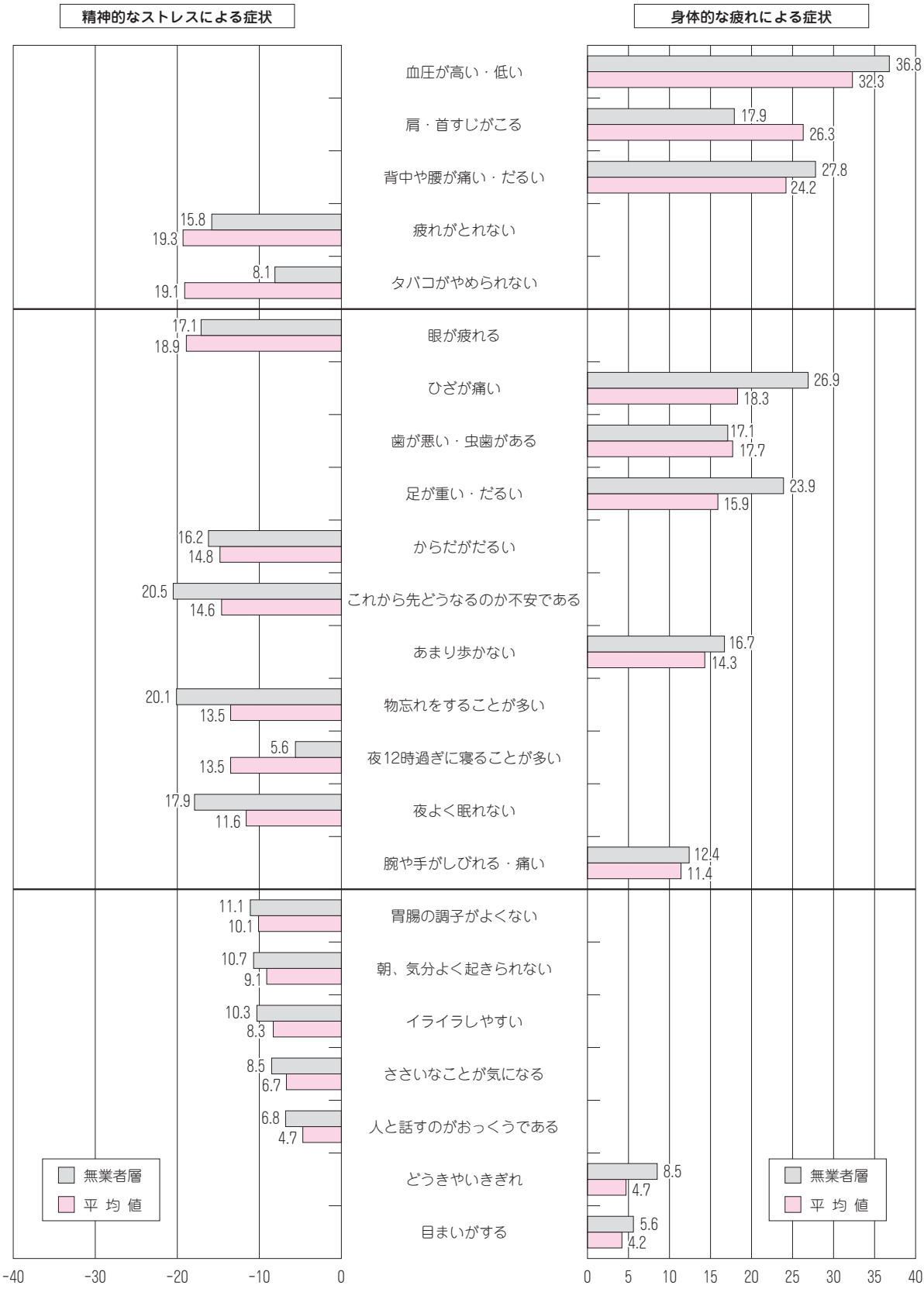
階層別にみてみると、「経営者層」では「具合の悪いところがある」が89.7%と高い値となっている。具体的には「肩・首筋がこる」「歯が悪い・虫歯がある」「足が重い・だるい」「腕や手がしびれる・痛い」などの身体的な疲労による症状が合計値と比較して高い割合である。また、「疲れがとれない」「タバコがやめられない」「疲れがとれない」「からだがだるい」「夜12時過ぎに寝ることが多い」「胃腸の調子が良くない」「朝、気分良く起きられない」「イライラしやすい」「ささいなことが気になる」などの精神的ストレスによる症状が合計値より高い割合となっている。

「具合の悪いところがある」とこたえているのは、「ホワイトカラー層」では61.1%、「ブルーカラー層」では66.7%、「不安定雇用者層」では71.9%といずれも合計値と比較すると低い割合であるが6割以上の生計中心者が何らかの症状を訴えている。特にこれら雇用されて働いている階層では精神的なストレスによる症状に合計値より高い割合のものが集中しているのが特徴的である。「自営業者層」も具合の悪いところがあると回答した割合は70.7%と合計値と比べ低い割合であるが、「血圧が高い・低い」「肩・首すじがこる」などの身体的な疲れからくる症状、「タバコがやめられない」などの精神的ストレスによる症状が合計値より高い割合である。

一方、「無業者層」では具合の悪いところがあるが89%と高い割合であり、身体的疲労からくる症状も精神的ストレスによる症状もともに合計値より高い割合の項目が多く、特に「医者に診てもらっている」割合が73.9%と高い。さらに「生活保護世帯」では具合の悪いところがあるが100%となっているほか、年金生活の世帯においても多くの項目が合計値より高い割合のもので占められているのが特徴的である。

「無業者層」は、「3－(2) 暮らしの面でなんとかしなければならないと思っていること」において「通院が困難」、「生計中心者の病気・事故」が高い割合であった。また、「3－(5) 家計支出の構造があらわすくらしむき」では、くらしむきは苦しく「医者・薬代」がかさむとする割合が高かった。このように、くらしの中身や水準が健康状態に集中的にあらわれているのである。

図Ⅱ－4 生計中心者の健康状態





表Ⅱ－53 階層構成別にみた健康状態（複数回答）

	総 数	る 具 合 の 悪 い こ ろ が あ る	身 体 的 疲 れ に よ る 症 状									
			血 圧 が 高 い ・ 低 い	肩 ・ 首 す じ が こ る	背 中 や 腰 が 痛 い ・ だ る い	ひ ざ が 痛 い	歯 が 悪 い ・ 虫 歯 が あ る	足 が 重 い ・ だ る い	あ ま り 歩 か な い	腕 や 手 が し び れ る ・ 痛 い	ど つ き や い き ぎ れ	目 ま い が す る
合 計	100% 823	(75.7) 623	32.3 201	26.3 164	24.2 151	18.3 114	17.7 110	15.9 99	14.3 89	11.4 71	4.7 29	4.2 26
経 営 者 層	100% 29	(89.7) 26	30.8 8	50.0 13	19.2 5	15.4 4	23.1 6	19.2 5	11.5 3	19.2 5		3.8 1
ホ ウ イ ト カ ラ ー 層	100% 113	(61.1) 69	24.6 17	33.3 23	17.4 12	7.2 5	15.9 11	5.8 4	18.8 13	10.1 7	4.3 3	1.4 1
ブルーカラー層	100% 75	(66.7) 50	10.0 5	26.0 13	16.0 8	4.0 2	18.0 9	10.0 5	16.0 8	4.0 2		
不安定雇用者層	100% 121	(71.9) 87	31.0 27	27.6 24	23.0 20	10.3 9	19.5 17	8.0 7	13.8 12	13.8 12	1.1 1	1.1 1
自 営 業 者 層	100% 222	(70.7) 157	36.9 58	31.2 49	26.1 41	19.7 31	17.2 27	14.0 22	8.9 14	10.2 16	3.2 5	6.4 10
無 業 者 層	100% 263	(89.0) 234	36.8 86	17.9 42	27.8 65	26.9 63	17.1 40	23.9 56	16.7 39	12.4 29	8.5 20	5.6 13
	厚生（共済）年 金が中心	100% 79	(89.9) 71	40.8 29	21.1 15	38.0 27	29.6 21	28.2 20	31.0 22	16.9 12	15.5 11	7.0 8
	国民年金のみ	100% 104	(90.4) 94	39.4 37	19.1 18	27.7 26	34.0 32	8.5 8	31.9 30	14.9 14	12.8 12	5.3 9
	生活保護世帯	100% 9	(100.0) 9		33.3 3	22.2 2	44.4 4	33.3 3	22.2 2	22.2 2	44.4 4	11.1 1

② 生計中心者の健康保険（表Ⅱ－54）

では、病気や怪我はもとより、健康のことが気になった場合や健康診断などを受ける際に利用するのが健康保険制度である。現在健康保険は自営業者や高齢者、零細な企業などで働く人々が加入している国民健康保険、大企業などの労働者が加入している組合管掌保険、中小企業などで働く労働者が加入している協会健康保険、公務員などが加入している共済組合、75才以上の高齢者の後期高齢者医療制度など、階層や年齢によって分立し、保険料や給付の内容、水準には違いがある。

「3－(5) 家計支出の構造があらわすくらしむき」において「経営者層」や「自営業者層」で3割弱の世帯が「公的年金や医療保険などの保険料」がかさむとする割合が高かったが、これは雇い主の拠出のない国民健康保険の加入の割合の高さから来ている。また「無業者層」における「医者・薬代」がかさむとする理由として、「後期高齢者医療制度」への加入が5割、「国民健康保険」が41.8%を占めていることもある。さらに、「1. くらしの場である地域の特性と課題（地域類型ごとにみた地域の特徴と課題）」や「3－(1) 地域問題の階層性」などにあるように、医療供給体制における地域偏在の問題もある。

以上明らかなように、健康状態と階層には密接な関係がある。住みなれた地域で健康にくらすことは多くの住民の願いである。そのためには、健康の維持や回復・改善が不可欠であり、その条件を整備することが必要となる。特に、健康問題が集中的にあらわれている、くらしの基盤がより不安定な階層の底上げと、そのための条件の整備が課題である。

精 神 的 ス ト レ ス に よ る 症 状															ど こ も 悪 け ない
疲れがとれない	タバコがやめられない	眼が疲れる	からだがだるい	これから先どうなるのか不安である	夜12時過ぎに寝ることが多い	物忘れをすることが多い	夜よく眠れない	胃腸の調子がよくない	朝 気 分 よ く 起 き ら ない	イライラしやすい	ささいなことが気になる	人と話すのがおっくうである	医者に診てもらっている		
19.3 120	19.1 119	18.9 118	14.8 92	14.6 91	13.5 84	13.5 84	11.6 72	10.1 63	9.1 57	8.3 52	6.7 42	4.7 29	51.8 323	(24.3) 200	
38.5 10	23.1 6	34.6 9	26.9 7	15.4 4	23.1 6	3.8 1	11.5 3	19.2 5	15.4 4	15.4 4	11.5 3	7.7 2	38.5 10	(10.3) 3	
34.8 24	21.7 15	17.4 12	20.3 14	4.3 3	24.6 17	11.6 8	10.1 7	8.7 6	14.5 10		1.4 1	1.4 1	27.5 19	(38.9) 44	
24.0 12	34.0 17	28.0 14	14.0 7	4.0 2	24.0 12	4.0 2	4.0 2	8.0 4	8.0 4	18.0 9	4.0 2	8.0 4	16.0 8	(33.3) 25	
13.8 12	28.7 25	18.4 16	6.9 6	10.3 9	12.6 11	5.7 5	8.0 7	9.2 8	5.7 5	3.4 3	8.0 7	3.4 3	37.9 33	(28.1) 34	
15.9 25	23.6 37	17.2 27	12.7 20	15.9 25	15.9 25	13.4 21	7.0 11	8.9 14	5.7 9	7.6 12	5.7 9	1.9 3	51.0 80	(29.3) 65	
15.8 37	8.1 19	17.1 40	16.2 38	20.5 48	5.6 13	20.1 47	17.9 42	11.1 26	10.7 25	10.3 24	8.5 20	6.8 16	73.9 173	(11.0) 29	
21.1 15	9.9 7	22.5 16	19.7 14	23.9 17	8.5 6	23.9 17	25.4 18	15.5 11	12.7 9	15.5 11	14.1 10	9.9 7	73.2 52	(10.1) 8	
13.8 13	3.2 3	16.0 15	12.8 12	19.1 18	3.2 3	20.2 19	19.1 18	10.6 10	11.7 11	9.6 9	7.4 7	7.4 7	76.6 72	(9.6) 10	
	11.1 1	11.1 1		33.3 3	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1		11.1 1	22.2 2		77.8 7		

表Ⅱ－54 階層構成別にみた生計中心者の健康保険の種類

	総 数	国民健康保険	共済組合・組合管掌保険（本人）	共済組合・組合管掌保険（家族）	協会健康保険（本人）	協会健康保険（家族）	日雇健康保険	後期高齢者医療（75歳以上）	医療扶助（生活保護）
合 計	100% 823	43.7 360	19.6 161	0.5 4	15.1 124	1.1 9	0.1 1	18.8 155	1.1 9
経 営 者 層	100% 29	34.5 10	37.9 11		24.1 7			3.4 1	
ホ ウ イ ト カ ラ ー 層	100% 113	1.8 2	80.5 91		17.7 20				
ブ ル ー カ ラ ー 層	100% 75	6.7 5	42.7 32		49.3 37			1.3 1	
不 安 定 雇 用 者 層	100% 121	47.1 57	14.0 17		34.7 42	1.7 2	0.8 1		1.7 2
自 営 業 者 層	100% 222	79.3 176	2.3 5	0.5 1	7.2 16	0.5 1		10.4 23	
無 業 者 層	100% 263	41.8 110	1.9 5	1.1 3	0.8 2	2.3 6		49.4 130	2.7 7